

栄養ケア・マネジメント導入に向けて

社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団
横浜市総合リハビリテーションセンター 栄養士 平山瑠美

事業団の概要

社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団は、障害のある児童や成人の方々に療育サービスやリハビリテーションサービスなどを提供するとともに、地域の諸機関への技術的支援や連携を図ることにより障害児者の福祉向上に寄与し、豊かな地域生活が営まれるよう支援することを目的に昭和 62 年に設立されました。

現在では、指定管理者として横浜市におけるリハビリテーションの中核施設である横浜市総合リハビリテーションセンターをはじめ、市内 4 か所（戸塚、北部、西部、よこはま港南）の地域療育センター及び障害者スポーツ文化センター横浜ラポールについて事業運営を行っています。



栄養ケア・マネジメント導入に向けて…

■現状

平成 26 年度「障害者施設栄養ケア・マネジメントの事例集作成プロジェクト」の参加を機に、平成 26 年 7 月より当事業団横浜市総合リハビリテーションセンター内の障害者支援施設入所者（定員施設入所支援 30 人）を対象とした「栄養ケア・マネジメント導入に向けての検討」を開始しました。

これまで栄養ケア・マネジメントは実施していませんでしたが、入所者の栄養状態の把握（身長・体重、臨床検査データ他）、栄養管理記録の実施、新規入所者との入所後面談（スクリーニング）、アセスメントは行っていました。しかし、これらの情報を他職種と共有できていないという課題がありました。

■障害者支援施設（以下生活支援課）について

生活支援課では、生活支援員が中心となって、家事動作、屋外移動、交通機関の利用、家の改修、職業についての相談等を行っています。さらには、地域での暮らしを支えるケアマネージャーや福祉関係機関との連絡調整などを行っています。

利用期間が、3 か月～1 年程度と短期利用となっており、利用期間の平均は約 6 か月。

利用対象者は、15 歳から 65 歳位までの主に脳血管疾患による片麻痺のある方や事故による脊髄損傷や頭部外傷などによって肢体不自由となった方が対象で、平均年齢は男女とも 45 歳前後と若く、働き盛り世代が多いことが特徴です。なお、センター内には 19 床の入院設備を備えた診療所があります。

■平成 26 年 8 月より、どのように他職種と連携しながら、よりよい栄養ケア・マネジメントを実施していけるかを栄養士なりの視点で検討しました。

また、生活支援課長に栄養ケア・マネジメント導入に向け、準備をはじめていく意向を伝えました。

- ・生活支援課長 …… 栄養ケア・マネジメント実施のための体制を整備・統括
 - ・生活支援員 …… 日常的生活状況（食事情報・身体状況・食行動）の情報共有
 - ・医師 …… 入所者の健康管理全般
 - ・看護師 …… 日常的生活状況（食事情報・身体状況・食行動）の情報共有
 - ・臨床心理士 …… 高次脳機能障害によって起こる食の問題行動の心理評価
その他心理評価
 - ・言語聴覚士 …… 失語症の方へ代償コミュニケーションを用いた栄養指導フォロー
摂食嚥下障害のある方への嚥下機能評価
- *失語症は、言葉が理解できない、言葉をうまく思い出せない、読み書きができないといった症状を示します。
- ・歯科衛生士 …… 歯科指導を中心とした口腔ケアや抜歯等の情報共有
 - ・作業療法士 …… 家事（調理）プログラムの実施（自炊意欲の促し）
 - ・理学療法士 …… 機能回復訓練の運動負荷など活動量の
情報共有

生活支援課退所後「地域で生活していく」という目標に向け、日々の訓練が組まれています。



生活支援課内で、多職種協働で「栄養ケア・マネジメント」ができる環境がある！

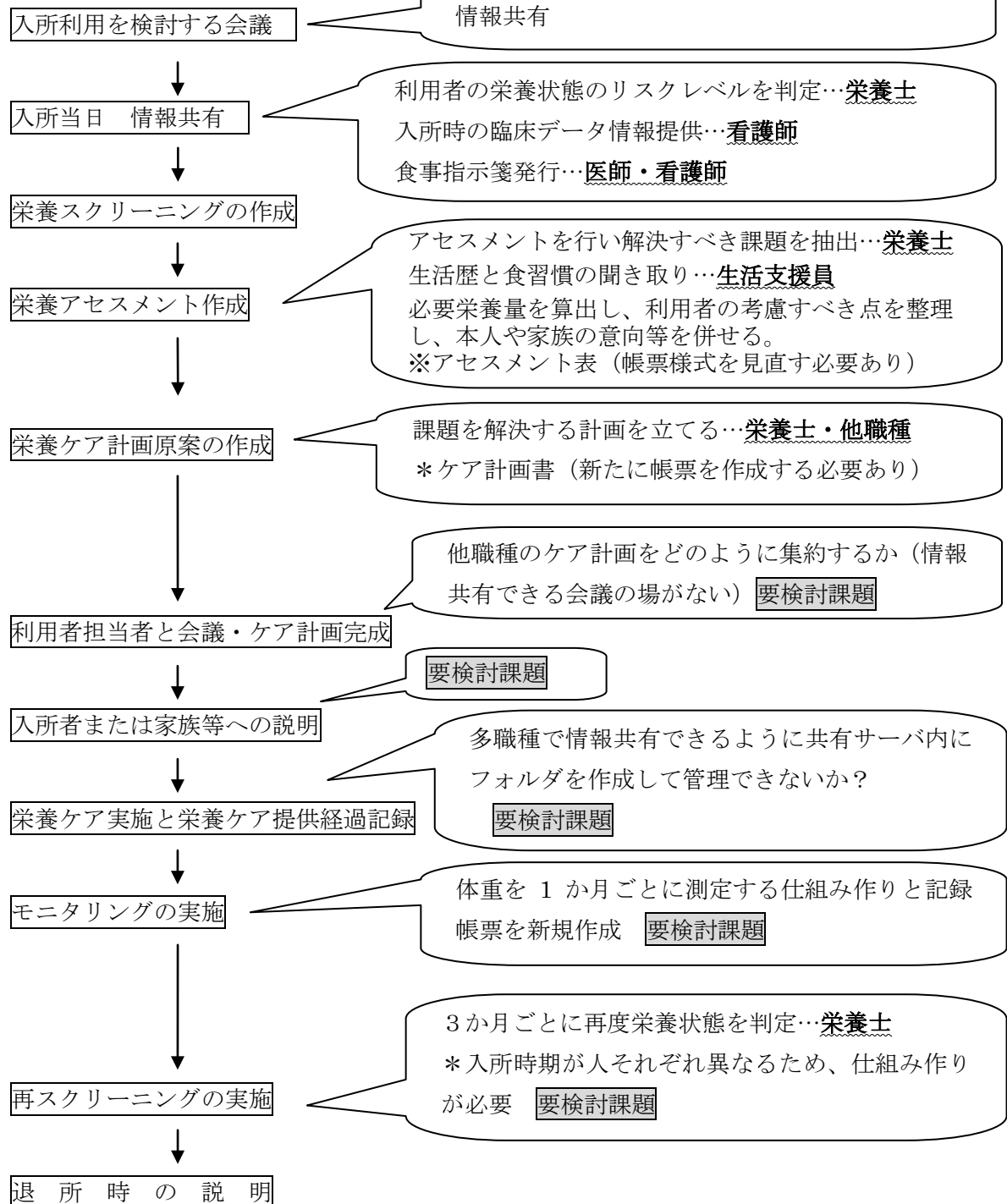
⇒入所者一人一人にあった最善のケアを提供するためにそれぞれの専門分野での知識を共有し合うことで、よりよいサービス提供が可能になると考えました。

■これからすべき課題の抽出

生活支援課における栄養ケア・マネジメントの流れをフローチャートでイメージ化して多職種とどのように連携していくか、また検討が必要な課題は、こういったものがあるのかを抽出しました。

栄養ケアマネジメントの実務の流れ

(関係職種は太字下線で表記)



まとめ

要検討課題とした事項を1つずつ解決しながら、平成27年度にプレスタート、平成28年度本格実施を目指していきたいと思います。